

最優秀賞【小学校高学年（五・六年生）の部】

学ぶことは誰かを助ける力になる

（課題図書：和算の道をひらけ！江戸の数学ブームをおこした吉田光由）【感想文】

竹園学園つくば市立竹園東小学校 五年 鈴木 佳穂

私は算数が好きです。祖母が数独をしているのを見て、一緒にやってみたことがきっかけで、数字を考  
えることが楽しいと感じるようになりました。数独では、どの数字が入りそうかを考えながら少しずつ進  
め、最後に一つの答えにたどり着いたときに大きな達成感があります。この本を読もうと思ったのは、「江  
戸の数学ブームを起こした吉田光由」という言葉を見て、昔の人は算数をどのように使っていたのか知り  
たいと思ったからです。

本を読んで一番心に残ったのは、算数や算法が、ただ問題を解くためのものではなく、人々の生活を支  
える力になっていたことです。七兵衛は算法を学び、水を通すための工事を成功させました。工事の途中  
でうまくいかないことが起きても、方法を考えながら前に進む姿は、算数の問題で行き詰まった時に考え  
方を変えて解くことと似ていると思いました。

この本を読む前の私は、算数は正しい答えを出すことが大切で、できるだけ早く解くものだと思ってい

ました。しかし、七兵衛が失敗や困難にぶつかりながらも、あきらめずに考え続ける姿を見て、算数も、遠回りや失敗をしながら考えることに意味があると思うようになりました。答えにたどり着くまでの考え方そのものが、大切なのだと気づきました。

この本を読み終えた時、私は父の話を思い出しました。父は医師ですが、患者さんの診療だけでなく、多くの時間を研究に使っています。その研究はうまくいっても今すぐ役に立つものじゃない、と聞いています。なぜ今困っている患者さんの診療ではなく、研究に時間を費やすのか聞いた時、「今は目の前の一人を助けることができなくても、研究で病気の原因が分かれば、将来の何千人、何万人もの人を救うことにつながるかもしれないから」と話していました。その言葉を思い出し、七兵衛が算法を広めることで多くの人の役に立とうとしたことと、似ていると感じました。

そのことを考えていた時、最近のニュースで、ノーベル賞を受賞した坂口さんも、ご夫婦で、誰も注目しない分野の研究を地道に続けてきたことを知りました。すぐに評価されなくても、自分たちが大切だと信じた研究を続けるのは、とても孤独で忍耐が必要だったと思います。それでも挑戦をやめなかったからこそ、今、多くの人の役に立つ成果につながっています。七兵衛や父、そして坂口さんのように、先のこととを信じて努力を続けた人が、今の世界を支えているのだと思いました。

私はこれまで、勉強は自分のためだけにするものだと思っていました。しかし、この本を通して、学ぶことは自分のためだけでなく、見えないところで多くの人の役に立つ力になるのだと考えるようになりま

した。私も算数や勉強を続けて、いつか誰かの役に立てるような仕事ができる大人になりたいです。